



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
33

中山太鼓

飛び入り歓迎の回り打ち



▲中山太鼓の「回り打ち」

ひと口メモ

中山太鼓保存会は、1977（昭和52）年に結成された。過去には、国立劇場「日本の太鼓」や、「大阪花の万博」、「愛・地球博」で、また1999（平成11）年にはアジア国際文化交流事業の一環として、マレーシアでも演奏を披露した。

串原総氏神中山神社の祭礼で奉納される太鼓。大太鼓はスリコギ形のパチ（キリ製）で、締め太鼓は竹製のバチを2本使って、長時間各組がたたく勇壮な太鼓。その由来は、豊年祝いまたは雨乞いの祈願が発祥と推定されるが定かでない。1574（天正2）年、武田軍の美濃侵攻に際して、迎え討った織田軍の将串原弥左衛門配下の武士たちは、大太鼓を拳で打ち鳴らし、締め太鼓を焼き清めた矢で折れ尽きるまで打ち鳴らし軍運を祈願したという。毎年10月の第3日曜日に奉納され、県の重要無形民俗文化財に指定されている。初めは一人の打ち手から、やがて一節毎に打ち手が交替しながら打つ「回り打ち」に変化。その「回り打ち」の輪が、ついには一つになる姿は圧巻。



▲中山太鼓のイラスト

坂折棚田

日本の棚田百選

えな自慢
34



▲秋の実りの坂折棚田

ひと口メモ

2003（平成15）年に開催した第9回全国棚田（千枚田）サミットを契機に、坂折棚田へ訪れる人が増加。また失われつつある石積みの技術と景観を、後世へ残すという目的で、石積み名人から工法を学び体験する坂折棚田石積み塾を開催している。

中野方町坂折地区の棚田は、今から400年ほど前から築かれ始め、明治時代初期にはほぼ現在の姿を形成。全国でも有数の美しい景色が評価され、1999（平成11）年には農林水産省の「日本の棚田百選」に認定された。急傾斜地での水田のほとんどを、一つ一つの石で積んである石積みのあぜが特徴。その中には黒鍬と呼ばれる専門の石工集団によって、築かれたと伝えられる美しい石積みが数多く残る。棚田の環境保全を目的として、地元住民らで発足したNPO法人恵那市坂折棚田保存会の活動では、棚田米による日本酒造りや棚田オーナー制度による体験農業などにより、地域農業の活性化を推進中。



▲特徴でもある石積みのあぜ

次号は10月15日号
発行日は10月15日金です

広報えな No.137
2010年（平成22年）
10月1日発行

発行 恵那市役所／編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』10月1日号、1部当たりの印刷経費は約9.5円（税込み）です。



恵那市安心安全メール配信システム
登録用QRコード
□問い合わせ 防災情報課（内線317）

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。

